

13:8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。

13:9 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな。」という戒め、またほかどんな戒めがあっても、それらは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」ということばの中に要約されているからです。

13:10 愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。

13:11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。

13:12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。

13:13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。

13:14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。

「何の借りもあってはいけません。」というのは、義務を残しておいてはならないということです。信仰ゆえに、または兄弟姉妹だからといって、義務を大目に見てもらいたがる人がいたからです。甘えを当たり前と思わないようにしましょう。

義務を残してはならないのですが、「互いに愛し合うことについては別です。」とパウロは言います。愛は自ら進んで義務を負おうとします。その点にお

いては、義務を感じることは良いのです。

愛は全ての律法を全うします。クリスチャンは“〇〇しなければならない”という発想ではなく、“〇〇をしてあげたい”という思いで行動するのです。

そのような生き方はイエス様の再臨があっても恐れることのない安心を与えます。イエス様の再臨、すなわち「眠りからさめるべき時刻」を覚えながら、イエス様の愛の原理で生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

